

登山月報

平成25年度 全国山岳遭難対策協議会開催される…	1
山岳ヘルメット着用奨励山域を指定 ……	2
平成25年度 遭難対策委員総会・研修会報告…	2
富士山の世界文化遺産と利用者負担金の徴収について…	4
パキスタンに対する渡航情報(危険情報) ……	5
第57回 Mountain World ……	6
高知県山岳連盟65周年記念誌発刊並びに祝賀会開催…	7
アンコールワットのクライマー来日 ……	8
山岳4団体懇談会 ……	9
toto 助成金交付式 ……	9
JMA、寄贈図書、編集後記 ……	9

平成25年度 全国山岳遭難対策協議会開催される

平成25年度全国山岳遭難対策協議会が7月3日(水)に霞ヶ関の文部科学省講堂で開催され、例年通り、全国から警察、消防、山岳関係者等300名が参加した。

主催者を代表して文部科学省の森岡スポーツ振興課長の挨拶のあと、日程に沿って進められた。

報告1は、「平成24年度中における山岳遭難の概況」が警察庁の大林昌弘地域課長補佐より報告された。平成24年度の発生件数は1988件(前年対比+158件)、遭難者数は2465人(前年対比+261人)、死者・行方不明者284人(前年対比+9)と、大震災の影響で減少していた指標がそろって増加したが、発生件数、遭難者数は過去最多となった。中高年者の発生状況は遭難者数で全体の74.5%、死者・不明者は89.4%と傾向通り高い比率で、様態別では 道迷い1031人(41.8%)、滑落380人(15.4%)、転倒346人(14.0%)となっている。発生件数は増加しているが無事救出も1254人(前年対比+144人)と増加している点の特徴である。

報告2は、「亀山市消防山岳救助隊の課題と今後の取組みについて」と題して三重県亀山市消防本部の原博幸山岳救助隊長、上田啓介主査が報告された。三重県は鈴鹿山系を中心に事故が急増しており、遭難対策協議会も設置されたが、事故者の多くは県外者である。

講演1は、「黒部の救助現場から」と題して阿曽原温泉小屋の佐々木泉代表が、黒部の水平道での事故の状況や救助の様子を話された。携帯のつながらない黒部では事故の情報は登山者によって夕方もたらされ、どうしても夜間救助になる。百メートル近く滑落しても助かる人もいれば3メートルで助からない人もいるなど自身の経験に基づく話は身につまされた。

講演2は、「安全登山のための登山計画および入下山届けの新システム」と題して長野県警地域課宮崎茂男課長補佐と(公社)日本山岳ガイド協会今更靖ネットワーク担当がオンライン登山計画・登山届システム



を紹介した。長野県も多くの山岳をかかえ事故最多発生県であり、事故防止に積極的に取り組んでいる。紹介されたシステムは登山届を中心に考えられており、事故防止のためには登山者が登山計画をたてるところが重要であると思われ、登山者目線にたった議論が必要と感じた。

会場ではさまざまな登山用具や関連機器の展示も行われたが、新しい位置情報探知機の参考展示があり、注目を集めていた。この探知機は携帯電話の技術を活用して開発され、見通し1km離れた所から感知、個体識別可能、充電式でスリープモード採用で電池寿命が1年など画期的であり製品化が待たれる。

最後に「山岳遭難事故防止のために」というアピールを採択し、神崎日山協会長の挨拶で閉会した。

(記 遭難対策委員長・西内 博)

平成25年度全国山岳遭難対策協議会 提言「山岳遭難事故防止のために」

登山者は山岳遭難事故防止のために
次のことに取り組むこと

○登山の第一歩は、目的とする山をよく理解することからはじまります。地図を基本にガイドブックや現地等から事前に山岳情報を調べること。

○登山計画書を作成して、パーティー全員がその山を良く理解するとともに、体力と経験に応じた無理のない

い計画であるかよく検討すること。

○登山計画書を家族や職場に知らせ、また、登山口の登山届ポスト、地元の警察署等に提出すること。

○単独登山はやめて仲間と登り、ツェルトや救急用品、非常食を必ず携行して、ゆとりある行動を心掛けて、安全に登山を行うこと。

○山の事故は自己責任であることをよく考えて、山岳保険には必ず加入すること。

○危急時に確実に連絡を取れる手段を確保するために、無線機、携帯電話等の通信機器を持参して登山を行うこと。

○登山に出発する前に目的とする山域の最新の気象情報を入手して、気象遭難を防ぐこと。

○登山中は常にパーティー全員の体調や疲労に注意を払い、コースの状況・気象条件等に応じて下山するなどの冷静な判断を行い、山岳遭難事故を絶対に起こさない心構えで行動すること。

関係者は山岳遭難事故防止に向けて次のことに努める

○登山計画書の提出を奨励し、計画的で安全な登山の普及に努める。

○登山道、道標、トイレなどの整備とその適切な管理に努める。

○今後設置する道標及び案内標示の様式、表記方法等について、可能な限り統一に努める。

○詳細な山岳情報と気象情報の提供に努める。

○中高年登山者やツアー登山参加者の安全確保に努める。

山岳ヘルメット着用奨励山域を指定

長野県山岳遭難防止対策協会

6月17日に開催された長野県山岳遭難防止対策協会(会長・阿部守一長野県知事)の設立50周年記念総会で、長野県内の5つの主要山域を「山岳ヘルメット着用奨励山域」とすることを決定した。

平成24年中に長野県内を訪れた登山者は、約70万5千人で、前年対比で約6万7千人増加した。一方、遭難事故も平成24年は254件発生して遭難者は279人と過去最多となった。これらの遭難者の4人に1人は頭部に負傷しているが、一方、滑落した登山者がヘルメットを着用していたため、命を取り留めた事例もある。そこで、滑落、転落、転倒事故の多い山域で登山する場合、クライミングに限らずヘルメットの着用を促し、「自分の命は自分で守る」という意識の普及を図る事にしたものである。

山岳ヘルメット着用奨励の山域は、以下の通り。

○北アルプス南部：槍・穂高連峰のうち、北穂高岳から涸沢岳・屏風岩、前穂高岳(北尾根から吊り尾根)一帯、西穂高岳から奥穂高岳、北穂高岳から南岳(大キレット)、北鎌尾根・東鎌尾根の区域

○北アルプス北部：不帰の嶮周辺、八峰キレット周辺

○南アルプス：甲斐駒ヶ岳、鋸岳

○中央アルプス：宝剣岳

○戸隠連峰：戸隠山、西岳

ヘルメットのレンタル(貸出・返却)場所等は、以下の通り。

○北アルプス南部：涸沢ヒュッテ、涸沢小屋、槍ヶ岳山荘に計100個

○北アルプス北部：天狗山荘、唐松岳頂上山荘、キレット小屋、冷池山荘に計50個

○南アルプス：長衛荘、駒仙小屋に計10個

○中央アルプス：宝剣山荘に20個

○戸隠連峰：小鳥の森(中社)(戸隠登山ガイド組合事務所)に20個

レンタルは有償で、実施期間は平成25年7月11日から平成28年6月までの3年間。貸出にあたっては、次の事項について登山者の同意を得るものとする。

○あご紐を確実に締めて使用するなど定められた着用方法に従うこと

○約束した山小屋等に確実に返却すること

○紛失や破損した場合は、弁償すること

平成25年度遭難対策委員研修会兼総会を開催

遭難対策委員会の平成25年度の研修会と総会が大坂府岳連の協力で平成25年6月29日から30日にかけて桜ノ宮リバーサイドホテルで開催された。29日は研修会で全体進行は石田常任委員が行った。最初に村越真静岡大学教育学部教授より「道迷い遭難の実態：事例・統計・スキルの視点から」として基調報告があった。村越教授の報告は遭難の統計的解析から道迷い遭難が増加している実態と道迷い遭難の実際の例の紹介の後、道迷い遭難のリスクについての話へと進み、道



公益社団法人化について説明する神崎会長

迷い遭難対策としてのナビゲーションスキルについて紹介された。道迷いは状態であり、道迷いのイベントツリーの起点は道間違いである。道迷い防止には道間違いをしないような教育すなわちナビゲーションスキルを指導すべきであることを再確認させられた。また、学校登山などにおいて引率者が地形図を持参せず子どもと同じ絵地図しかもっていない実態もあるなど考えさせられる内容も紹介された。

予定を変更し、青山千彰関西大学教授の「減遭難への事故調査報告の活用」の報告を聞いた後、減遭難対策について全員で討議した。特に道迷いについて討議したが、地図の読み方ではなく使い方を教えることが大切、GPSによる道迷い対策の有効性、事故情報の共有化などが議論された。

続いて山口岳連より、5月連休の白馬大雪渓の雪崩事故の報告があった。報告により救助の様子は良く分かり、雪崩救助犬の活用など参考になったが、なぜ前日に多量の降雪があり、視界も効かない谷に入ってしまったのか、なぜ予定を変更しそのような行動をとったのかなどについては不明である。

研修会終了後、懇親会が行われた。

総会は30日に行われ岩切常任委員が全体進行を行った。神崎日本山岳協会会長の挨拶で開会し、平成24年度事業報告、平成25年度事業計画の報告のあと、昨年に引き続き町田副委員長から遭難対策常任委員会が大府岳連などと協力して実施したロープ強度試験の報告があった。今回はセカンド確保と懸垂下降での加重について報告された。セカンド確保は墜落しても大した衝撃がかからないと思われがちであるが、落下係数約0.3の墜落で支点には3kn以上の荷重がかかることや、約60kgの人が懸垂下降を行うと支点には約1.8kn程度の荷重がかかることなどが計測された。今後も実使用に即した強度試験を継続することが確認された。続いて日中韓合同山岳救助訓練の報告、オーバーナイト・テントフォーラムの報告が行われた。

引き続き青山副委員長よりUIAA登山委員会の報告とIMSARの報告があった。UIAA報告では国

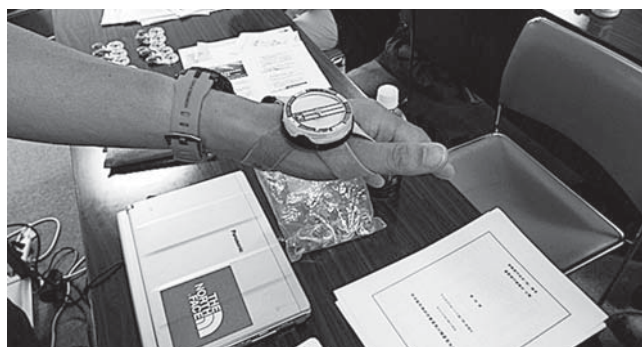


事故調査報告をする青山教授

際山岳事故調査が日本の提案をベースに採択され動き出したとの報告があった。もっとも苦労したのは用語であり、登山やハイキングを表す言葉や概念が国により異なり、その摺合せに時間を要したとのことである。クライミングなどの山岳競技については競技規則などにより国際的な用語の統一が進められている。登山に関しても国際的な用語の標準化が必要であると思われる。IMSARの報告では道迷い事故の減少にねらいをしばり活動していることが報告され、登山道のリスク・マップ分析法や第三者事故調査法の研究開発の進捗状況について報告があった。現段階は、やっと調査法の全体構造が見えてきた段階である。今後、多くの専門家と共に、完成に近づけたいと考えているので日山協遭難対策委員会にもご協力をお願いしたいとのことである。日山協の中で、安全登山の教育や指導を担当する部門が不明確であり、一方で公益社団法人として一般登山者への安全登山の教育や指導がまったなしの状況である、神崎会長から協会の理念とそうした目的のために日山協内の委員会が過去の枠にとらわれず協力してほしいとの言葉があり、責任を感じる有意義な研修会、総会となった。開催にご協力いただいた地元の大府岳連に感謝したい。

【総会出席者】 神崎忠男(会長)、西内博、町田幸男、青山千彰、永井伸幸、渡部逸郎、恵秀彦、松本善行、渡邊輝男、岩切貴乃、林満、中丸忠男、清水学、下越田功、近藤孝久、大沼正博、石田英行、一本松文夫、(以上常任委員) 佐藤誠(岩手) 阿曾清浩(山形) 須賀邦雄(千葉) 中澤弘雄(山梨) 井春文(新潟) 村田健治(長野)、岡田美智江(石川) 増田利幸(福井) 堀内修(静岡) 高橋優(愛知) 小古真也(三重) 廣瀬修二(岐阜) 竹村喜一郎(滋賀) 森裕紀子(京都)、前田賢(鳥取) 山崎裕昌(岡山) 新山まゆみ(広島) 坂口仁治(山口) 十河利雄(香川) 戸高和義(福岡) 渡邊利博(長崎) 佐藤敏雄(熊本) 田場典淳(沖縄) (以上委員) 山並久次、飛田典男(以上大府岳連)

(遭難対策委員長 西内 博)



コンパスを常時見ながら進む

富士山の世界文化遺産と利用者負担金の徴収について

6月22日、カンボジアのプノンペンで開催された第37回ユネスコ世界遺産委員会(イコモス)において、わが国が世界文化遺産に推薦していた富士山が、世界遺産一覧表に記載されることが決定した。記載の名称は、「Fujisan, sacred place and source of artistic inspiration (富士山—信仰の対象と芸術の源泉)」

記載審議に係る評価の内容は以下の通りであった。

記載基準 iii：独立成層火山としての荘厳な富士山の形姿は、間歇的に繰り返す火山活動により形成されたものであり、古代から今日に至るまで山岳信仰の伝統を鼓舞し続けてきた。頂上への登拝と山麓の霊地への巡礼を通じて、巡礼者はそこを居処とする神仏の霊能を我が身に吹き込むことを願った。これらの宗教的関連性は、その完全な形姿としての展望を描いた無数の芸術作品を生み出すきっかけとなった富士山への深い憧憬、その美しさへの感謝、自然環境との共生を重視する伝統と結び付いた。一群の構成資産は、富士山とそのほとんど完全な形姿に対する崇敬を基軸とする生きた文化的伝統の類い稀なる証拠である。

記載基準 vi：湖沼及び海から立ち上がる独立成層火山としての富士山の図像は、古来、詩・散文その他の芸術品にとって、創造的感性の源泉であり続けた。とりわけ19世紀初期の葛飾北斎及び歌川広重により浮世絵に描かれた富士山の図像は、西洋の芸術の発展に顕著な影響をもたらし、今なお高く評価されている富士山の荘厳な形姿を世界中に知らしめた。

次に我が国への勧告事項を以下に記す。

- ①アクセスの利便性・レクリエーションの提供と神聖さ・美しさの質の維持と相反する要請に関連して、資産の全体構想(ヴィジョン)を定めること。
- ②神社・御師住宅及びそれらと上方の登山道との関係に関して山麓の巡礼路の経路を特定し、それらがどのように認知・理解されるのかについて検討すること。
- ③上方の登山道の受け入れ能力を研究し、その成果に基づく来訪者管理戦略を定めること。
- ④上方の登山道及びそれらに関する山小屋、トラクター道のための総合的な保全手法を定めること。
- ⑤個々の構成資産において来訪者施設(ビジターセンター)の整備及び解説を促進するために、個々の構成資産が資産全体の一部分を成すことがどのように認識・理解できるのかを周知するために、情報提供戦略を策定すること。



⑥景観の神聖さ及び美しさの両側面を維持するために、経過観察指標を強化すること。

これらの勧告事項を含めた保全状況報告書を2016年の第40回世界遺産委員会において審査できるように、16年2月1日までに世界遺産センターに提出しなければならない。

こうした中で静岡、山梨両県では今夏、富士山の利用者負担の社会実験を実施した。

7月25日～8月3日の9時～18時の間、富士宮口五合目、御殿場口新五合目、須走口五合目、吉田口六合目の登山道で山頂目指す登山者に対して1000円の富士山保全協力金の協力(任意での)を呼びかけた。

その結果、10日で34,327人(静岡県側14,988人、山梨県側19,339人)が協力して計34,129,822円が集まった。両県は、協力金を一時保管して年末までに運用方法や来夏の入山料制度を決定する、と云う。

今回の利用者負担金の試験徴収については、拙速、時期尚早の感が歪めない。一番は使途目的がはっきりしていない事と入山者の抑制策がごっちゃになっている事だ。構成資産の保全には費用がかかるのは判るが、利用者負担の使途は、構成資産まで広げず、絞り込まなければ登山者からの理解は得にくいであろう。因みに静岡県の平成25年度富士山関連事業予算は約49億円。その中には東富士演習場の土地改良事業費約22億円、三保の松原の高潮対策事業費約3億4千万円などが含まれている。これらの事業費負担まで登山者に求めるのか? 使途目的をきちんとし、負担金の金額も良く検討して協力を呼びかけなければ、来夏からの負担金徴収の定着は難しいのではないと思われる。因みに今回の協力者の多くは使途目的に「トイレの美化」を挙げた。(記 尾形好雄)

パキスタンに対する渡航情報（危険情報）

6月23日、ギルギット・バルチスタン（以下「G B」）地域のナンガ・パルバット山麓で、宿泊施設に滞在していた外国人旅行者等に対する襲撃事件が発生し、中国人やウクライナ人を含む外国人10名、パキスタン人1名が殺害された。この事件の犯行主体や経緯等は不明。これまでにパキスタン・タリバン運動（T T P）をはじめとする複数の過激派組織が犯行声明を発出している。これらの声明では、今回の事件では外国観光客を狙ったと述べるとともに、今後も外国人を襲撃対象とする旨明確に述べており、今後も外国人を対象とした同種事件の発生の可能性が懸念される。同地域では、最近イスラム教スンニ派とシーア派の宗教間対立が深まっており、2012年4月にも、宗教間対立に端を発してギルギット市内に外出禁止令が発出され、同年8月には、隣接するマンセーラ郡ナランにおいてT T Pによるイスラム教シーア派及び旅行者に対する襲撃事件が発生した。T T Pは今後もシーア派を標的としたテロ攻撃を実行する旨警告している。滞在時には、訪問先等から外国人旅行者に対する脅威情報を含む治安情勢について十分な情報収集を行い、不断に留意すること。

尚、テロ事件の多くは、アフガニスタンとの国境地帯を中心に軍や警察等治安当局を標的として発生している。これに加えて、近年、政府寄りの部族民を標的とした犯行も見られるほか、バロチスタン州やカラチ等でシーア派など宗教的少数派の宗教行事や宗教施設を標的とする事件が年間を通じて増加傾向にある。また、これまであまり見られなかった、女性を実行犯とする自爆テロ事件も発生するなど、その手口は多様化しているので注意が必要だ。引き続き、TTPその他の過激派組織が米国大使館等外国権益や外国公館、パキスタン軍及び政府等に対するテロを敢行する可能性は否定できない。

最近ではイスラマバードやラホールといった一部の都市部の治安状況は比較的安定している。一方、カラチにおいては、リヤリ地区などを中心に標的殺人が急増するなど、治安が悪化している。また、反米、反政府、反テロ、頻発する停電等様々なデモが国内各地で行われることがある。デモの形態によっては、参加者が暴徒化する恐れもあり、デモに限らず、人の多く集まる場所では常にテロの危険性が排除できないことから、デモや集会などには絶対に近づかないよう注意す

る必要がある。

ハイバル・パフトウンハー州（旧北西辺境州。以下「K P州」）及びバロチスタン州をはじめ、各地において誘拐事件が発生しており、外国人を含む被害者が出ている。事件は長期化する傾向にあり、被害者が殺害される事例も発生している。

○「退避勧告、渡航延期」

- ・アフガニスタンとの国境付近一帯
- ・連邦直轄部族地域（F A T A）及び郡隣接部族地域
- ・K P州のスイート、アッパー・ディール、ローワー・ディール、マラカンド、マルダン、チャルサダ、ブネール、シャングラ、コハート、バンヌー、ハンダー、デラ・イスマイル・カーン、カラック、ラッキ・マルワット及びタンク

・カシミール管理ライン（L O C）付近一帯

○「退避勧告、渡航延期」（やむを得ない事情で、残留する場合は、十分な安全対策を講じる等。）

・K P州ペシャワール

○「渡航延期」（滞在中の方は、不測の事態に巻き込まれないよう危険回避を真剣に心がける事。）

・K P州ノウシェラ及びスワビ

・バロチスタン州デラ・ブグティ及びコールー

・シンド州ジャコババード

○「渡航延期」

・G B地域（アフガニスタンとの国境付近及び管理ライン付近を除く）及びK P州チトラル（アフガニスタンとの国境付近を除く）

・イランとの国境付近一帯、バロチスタン州クエッタ



第57回 Mountain World

「最後の氷の戦士」カラコルムに逝く

池田常道

アルトウル・ハイゼル（51）が7月7日、ガッシャブルム I 峰（8068m）で転落死した。マルティン・カチカンとふたりで前日頂上を攻撃し、7600mから引き返した翌日のことだった。ポーランドの冬季ヒマラヤ登山黄金時代を担ったクライマーとしては、3月のブロード・ピーク（8051m）におけるマチェイ・ベルベカ（58）に次ぐことし2人目の犠牲である（ベルベカの遭難は4月号本欄参照）。

*

1980年代、ヒマラヤ8000m峰の冬季登攀シーンを席卷したポーランドのクライマーたちを、西側メディアは「アイス・ウォリアー（氷の戦士）」と呼んでその偉業をたたえた。80年エヴェレスト（レシェック・チヒとクシストフ・ヴィエリツキ）、84年マナスル（マチェイ・ベルベカとリシャルド・ガイェフスキ）、85年ダウラギリ（アンジェイ・チョクとイェジ・ククチカ）、同チョー・オユー（ベルベカとマチェイ・パフリコフスキ）、86年カンチェンジュンガ（ヴィエリツキとククチカ）、87年アンナプルナ（ククチカとアルトウル・ハイゼル）、88年ローツェ（ヴィエリツキ）と続くリストを見れば、ほとんど前例のなかった冬のヒマラヤというテーマに、彼らがいかに真摯に、継続的に挑戦を繰り返したかが分かるだろう。

これら成功を収めた登山以外にも、ポーランド・クライマーはK 2に2回（88年、03年）、ナンガ・パルバットには4回（88年、90年、97年、08年）挑んで、それぞれ冬季の最高到達点（K 2で7680m、ナンガ・パルバットで7900m）を記録している。

アルトウル・ハイゼルは1962年6月生まれ。ククチカやヴィエリツキに続く若手の代表としてナショナルチームに加わった。85年と87年に当時未踏のローツェ（8516m）南壁攻撃に加わり、86年のカンチェンジュンガ（8586m）にも参加している。87年にはククチカとアンナプルナ（8091m）に冬季初登頂。ククチカの8000m×14座登頂の過程で同年秋にシシャパンマ（8027m）西稜を初登攀した。また89年春には、メスナー隊に加わって三たびローツェ南壁に挑戦したが、ついに果たさなかった。

しかし、その秋に行なわれたククチカのローツェ南壁挑戦にはあえて加わず、独自の計画に着手した。14座完登は1年間で可能だとすると破天荒なプランである。メンバーは3人+シェルパ2人、総費用47万9500米ドル、ひと夏でパキスタンの5座を片付け、春と秋にネパールとチベットの9座を振り分けるといのがその骨子だった。

しかし、当時14座完登に成功していたのは86年のメスナー（足かけ16年）と87年のククチカ（8年）のみ。おまけにチベット情勢が不安定で入域の可能性は薄く、パキスタンもひと夏に5座もの許可を与えてくれる保証はなかった。加えて、こんにちのようにヘリの機数も多くないから、ベースからベースへの移動がネックになりそうだった。一山ごとに順応するロスがない分効率的だとハイゼルは語っていたが、結局この野心的計画は日の目を見ることなく終わった。

その後、90年にヒマラヤ登山の第一線から身を引いてアウトドア用品ビジネスに転じたハイゼルだったが、ポーランド登山界の地盤沈下を憂慮した連盟が立ち上げたヒマラヤ登山再興5か年計画のマネージャーという重責を引き受けて復帰した。2005年から高所登山に再び身を投じ、08年にダウラギリ（8167m）、10年にナンガ・パルバット（8126m）、11年にマカルー（8463m）と3座の巨峰を勝ち取った。また11年には冬季ブロード・ピーク（8051m）隊を率いて7830mで敗退、12年にはガッシャブルム I 峰隊の隊長として冬季初登頂を成功に導いた。

しかし、この冬ブロード・ピークに成功したものの、前述したベルベカとトマシュ・コヴァルスキを失ったことで、順調に見えた5か年計画に暗雲がきざした。一時休止を余儀なくされるなか、ハイゼルは若いカチカンと組んでふたりだけの遠征を企画、ガッシャブルムの I 峰と II 峰（8035m）を続けて登ろうとしていた矢先の悲劇だった。



87年冬季アンナプルナでのショット。左からアルトウル・ハイゼル、ワンダ・ルトケヴィッチ、イェジ・ククチカ。岳人2013年7月号の記事にハイゼルが提供してくれたものである。

高知県山岳連盟65周年記念誌発刊並びに祝賀会開催



高知県山岳連盟は昭和22年4月に高知山の会、六稜山岳会、アルファ・キャンピング・クラブ(A・C・C)、高知山岳会で発足しています。この間、昭和63年2月23日には、高知県文教会館で創立40周年記念式典を開催しました。また、平成8年2月3日には50周年記念誌を発刊し、記念式典を開催しました。

平成24年度は高知県山岳連盟65周年を迎えるので、年度計画で記念誌発刊並びに記念式典を開催することを機関決定し、記念誌委員会を各加盟団体推薦者11名で構成し準備を進めました。基本的な編集方針として、体裁、ページ数、目次、予算の骨格を決め、海外遠征5件、全国大会・よさこい高知国体を含め4件、各加盟団体のメッセージ13件、専門委員会の記録5件、資料11件について原稿依頼をしました。この記念誌

編纂にあたり、写真、カットや資料の提供、原稿のデータ化等に編集委員をはじめたくさんの方々にご協力をいただき5月末日にやっと発刊の運びとなりました。ありがとうございました。感謝申し上げます。

65周年記念式典・祝賀会は6月22日(土)高知会館で90名の会員、日山協、四国岳連及び県内関係団体の参加を得て開催しました。

記念式典は、最初に高知県山岳連盟を代表して宮崎良平会長が挨拶し、連盟の歩みを報告。次いで公益社団法人日本山岳協会・神崎忠男会長、高知県尾崎正直知事(高知県教育委員会スポーツ健康教育課葛目憲昭課長代読)、公益財団法人高知県体育協会・西山昌男会長、四国山岳連盟及び愛媛県山岳連盟・峯本典寛会長の4名から祝辞を頂きました。15名の来賓紹介、祝電披露で閉式しました。

祝賀会は2F白鳳の間に移動して18時より、国澤鎮雄顧問の挨拶に続き、坂口三郎日山協顧問の音頭で乾杯をし、懇親会が始まりました。数々の思い出に花が咲き、和やかな歓談の中に交流が深まり、中締めめの挨拶、記念撮影をして65周年祝賀会も閉会しました。

(記 高知県山岳連盟副会長 麻田正博)

第52回全日本登山体育大会、参加募集中!!

ジオパークを歩み、太古の大地の営みに想いを馳せる山旅へのいざない

期間 平成25年11月8日(金)～10日(日)
会場 水戸市、大子町、常陸太田市、北茨城市、日立市、つくば市

【登山コース】

- A：筑波山(周回)
- B：奥久慈男体山・袋田の滝(縦走)
- C：竜神峡(沢登り)
- D：神峰山(縦走)
- E：花園・七ツ滝(周回)

参加費 33,000円

(宿泊・食費、輸送費、記念品、保険料を含む)

問合せ 茨城県山岳連盟事務局

TEL・FAX 029-841-5198

E-mail:ibaraki-gakuren@carrot.ocn.ne.jp

カタール航空利用。短期間で効率よくキリマンジャロに挑む

**【山麓乗り入れ】キリマンジャロゆったり登頂と
タランギレ国立公園サファリ 10日間**

発着地 東京・大阪 旅行代金 ¥498,000～¥578,000

出発日 12/13(金)・12/27(金)・1/3(金)・1/20(月)・2/3(月)

※燃油サーチャージ(2013年7月3日現在:目安約32,000円)が別途必要です。

旅行企画・実施 観光庁長官登録旅行業第490号/日本旅行業協会正会員/ボックF保証会員

ALPINE TOUR サービス 株式会社

〒105-0003 東京都港区西新橋2-8-11 第7東洋海事ビル4階 ☎03-3503-1911

大阪 ☎06-6444-3033 名古屋 ☎052-581-3211 福岡 ☎092-715-1557

e-mail:info@alpine-tour.com http://www.alpine-tour.com

アンコールワットのクライマー来日

8月10日～12日に富山県南砺市の桜ヶ池クライミングセンターで開催される第16回JOCジュニアオリンピックカップ大会に出場するためにカンボジアのアンコールワットからソー・セイハ、キム・メサの2選手とコーチのセム・サローン氏が来日した。

本年1月に伊藤忠男氏が代表を務めるNGO・アンコール・クライマーズ・ネット(CAN)を通じて、カンボジア・クライミング連盟(CCF)から本協会に始まったばかりのカンボジアのクライミングを正しく普及するための支援要請があった。

これを受けて2月に神崎会長がカンボジアを訪れ、シェムリアプにあるアンコール・クライミング・ウォールを見学した。その折にカンボジアのユース・クライマーの日本招請の話が持ち上がった。

其の後、本協会ではCCFの要請に応え、JOCジュニアオリンピックカップ大会への選手招請及びユース・クライマーの研修計画を提案し、この度の来日となった。

カンボジアでは70年代から80年代にかけて長く戦火の中にあった。特に75年～79年の虐殺政権時代には、高僧や教師などの知識人を中心に国民の5分の1を失い、お経や書物の殆どが焼かれた。人々は都市や農村を追われ、強制労働を強いられた。この虐殺政権が崩壊した後も内戦は続き、地区によっては20年以上にもなる苦難の時代を経て、漸く1993年の総選挙で、平和と復興へのスタートを切った。

今回来日したセイハとメサの2選手は、内戦後の復興スタートとほぼ同時に生まれた平和を担う象徴的な新世代だ。伊藤氏は「現在、復興は目に見えて進んでいるけれど、国民がスポーツを楽しむといった環境はまだ用意されていない。それでも子供たちはスポーツに意欲的だ。ことに冒険的な要素のあるスポーツクライミングはカンボジアのこどもたちの健全な育成に大きく寄与すると期待される。」と語る。

【ソー・セイハ】.....



1995年、シェムリアプ市生まれ。公立高校ダップマカラ在学。グレード11(日本の高校2年に相当)。2011年1月よりクライミングを始め、5ヶ月後にミニコンペで5.11bをオンサイトして優勝。12年1月の第1回アンコールカップで5.11dの超決勝をオンサイトで優勝。12年12月第2回アンコールカップでも5.12bを制して優勝。

【キム・メサ】.....



1994年、シェムリアプ市生まれ。公立高校ダップマカラ在学。グレード12(日本の高校3年に相当)。2011年6月のミニコンペで2位、12年1月の第1回アンコールカップでセイハに敗れて2位。12年12月の第2回アンコールカップでは5.12bの超決勝で4位。

平成25年度中高年安全登山指導者講習会

「東部地区」

期 日 平成25年9月27日(金)～29日(日)
会 場 「モリトピア愛知」
(新城市門谷字鳳来寺7-60)
愛知県民の森および宇連山系
参加費 22,000円
講義内容 1. 道迷い防止のためのナビゲーションの考え方(村越真講師)
2. 登山計画とナビゲーション技術の実際(小林亘講師)
3. 山岳遭難を防ぐための気象の基礎(上田歳彦講師)
申込み 日本山岳協会事務局
締切り 9月12日(木)

「西部地区」

期 日 平成25年10月11日(金)～13日(日)
会 場 「休暇村南阿蘇」
(熊本県阿蘇郡高森町)
阿蘇山周辺
参加費 23,000円
講義内容 1. 登山計画とナビゲーション技術の実際(小林亘講師)
2. 道迷い防止のためのナビゲーションの考え方(北村憲彦講師)
3. 阿蘇火山の概要と安全登山について(池辺伸一郎講師)
申込み 日本山岳協会事務局
締切り 9月27日(金)

山岳4団体懇談会

本会と日本勤労者山岳連盟(労山)、日本山岳会(JAC)、日本山岳ガイド協会(JMGA)の4団体懇談会が7月17日(水)に東京原宿の南国酒家迎賓館で開催された。この懇談会は、1999年に本会と労山、JAC、日本ヒマラヤ協会(HAJ)の4団体で日本の登山界の諸問題や課題を協議するためにスタートした。その後、2009年にHAJが新体制への移行に伴いこの枠から離脱。翌年から新たにJMGAが加わった。

15回目となった今年は、本会が当番を受け持った。懇談会に先立ち、神崎会長が当番団体として挨拶を行い、次いで日本登山界の現状と将来像について映像でプレゼンテーションした。その後、森・JAC会長のご発声で乾杯し、懇談と意見交換に移った。

懇談会では、以下の報告及び提案がなされた。

1. 「山の日」制定協議会及び超党派「山の日」制定議員連盟の活動報告と今後の全国展開について
2. U A A A 国際文化交流登山(トレッキング)の推進について
3. 神奈川県山岳スポーツセンター及びユースシロッジの共同運営による有効活用について
4. 自然岩場のアクセス問題について
5. 山と自然ネットワーク「コンパス」によるオンライン入下山届システムについて
6. 富士山で社会実験される登山者への利用者負担金徴収について
7. 「富士山の弾丸登山の自粛」、「富士山登山ガイドライン」、「山岳ヘルメット着用奨励山域の指定」など

の登山規制の動きについて

懇談会は和やかなうち進み、時間を30分程延長して21時30分にお開きとなった。

(出席者)

日本勤労者山岳連盟：西本武志(会長)、斎藤義孝(理事長)、浦添嘉徳(副理事長)、花村哲也(副理事長)、川嶋高志(事務局長)、日本山岳会：森武昭(会長)、節田重節(副会長)、黒川恵(副会長)、古野淳(副会長)、高原三平(常務理事)、萩原浩司(前理事)、日本山岳ガイド協会：今井通子(副会長)、磯野剛太(理事長)、日本山岳協会：神崎忠男(会長)、八木原暁明(副会長)、佐藤旺(副会長)、尾形好雄(専務理事)

toto助成金交付式



サッカーくじ(愛称toto)を運営する(独)日本スポーツ振興センター(JSC)は、7月24日、東京・芝公園の東京プリンスホテルにて「toto助成金交付式」を行い、助成を受けるスポーツ団体や地方公共団体の代表など約200人が出席した。

JSCはtotoの収益などを財源にして平成25年度は選手、地方公共団体、スポーツ団体などに約170億円を助成する予定。そのうち本会などに係るスポーツ団体スポーツ活動助成は約30億円。交付式にはロンドン五輪メダリストやソチ五輪に出場する選手も出席し、toto助成への感謝や今後の抱負を述べた。

また、交付式ではJSCが新たに各自治体と構築した「JAPAN SPORT NETWORK」の共同宣言と締結セレモニーが行われた。(以上、尾形好雄 記)



平成25年度7月(25年7月)
運営部会(常務理事・委員長)報告

日時 平成25年7月11日(木)
17:30~20:20
場所 岸記念体育会館103会議室
出席者 神崎会長、八木原、國松副会長、尾形専務理事、小野寺、西内、森下、京才、水島、瀧本各常務理事、中島監事
委任 佐藤副会長、仙石、青木常務理事(理事13名中10名出席)

1. 専門委員会動静

6月常務理事会以降
(6月14日~7月10日)

【報告】

(1)自然保護委員会

6月18日(火) 出席者15名

ア 4月臨時常任委員会議事録について
イ 平成25年度常任委員研修会、5月常任委員会、「山岳自然保護の集い・中央大会」実行委員会議事録の確認
ウ 平成25年度第1回運営部会(常務理事・委員長)の報告
エ 山岳7団体自然環境連絡会報告
オ JMA自然保護ブログページ開設について
カ 山の自然と神々のセミナー報告
キ 「山岳自然保護の集い・中央大会」の実施要項について
ク 平成25年度・26年度自然公園指導員候補者の推薦

(2)国際委員会

6月19日(水) 出席者9名

ア 国際委員総会兼海外登山遭難対策研究会の準備について

イ 平成25年度常任委員について

ウ 大ネパール展の報告

(3)ジュニア普及委員会

6月20日(木) 出席者5名

ア ジュニア登山教室 in 立山について

・募集要項、ポスターの配布

・立山自然の家合同打ち合わせ会(7/5~6、西内、本木、佐伯出席)

・引率者の依頼(12名)

・葉作成について

イ 中高年安全登山指導者講習会について

・東部及び西部地区実施要項の内容確認

ウ 全日本登山体育大会について

・第51回福井大会の報告書(CD)



ご存知
ですか？

～日本山岳協会山岳共済会会員様限定～ 「山岳共済会の山岳遭難・捜索保険」のおすすめ

約52%
割引!!



●このチラシは保険の特徴を説明したものです。詳細はパンフレット「山岳共済会の山岳遭難・捜索保険のご案内」をご覧ください。(パンフレットは日山岳協会山岳共済事務センター宛ご請求ください。)

この保険の主な補償内容

- ・登山中のケガで死亡された場合 (※加入タイプによってはケガによる入通院を補償対象とすることができます。)
- ・登山中に遭難し、遭難・捜索費用や救援者費用が発生した場合 等
- ・なお、登山・ハイキング中だけでなく、日常生活や業務中に起こった傷害事故も補償の対象となります。

この保険のご加入条件

- この保険は「日本山岳協会山岳共済会」が契約者となる団体傷害保険です。お申込人(=被保険者(補償の対象者))となれる方は「日本山岳協会山岳共済会会員」のみとなります。
- 会員になる為の手続き方法は、山岳共済会ホームページ掲載の「山岳共済会のしおり」をご確認ください。(毎年別途会費が必要です。)

補償内容・保険料表 (詳しくはパンフレットをご請求のうえ、ご参照ください。)

～「登山コース」の保険料例～

職種級別 A

(1) 保険始期日が4月1日の方

入院補償付タイプがおすすめ!

昨年からの1年間*で入院は171件、通院は304件のお支払い
事実がありました。(※平成23年10月1日～平成24年10月1日の支払実績)
1Bセット・1Cセットなら、1年間1万円前後の保険料でケガによる
入院にも備えることができます!



保険金額 タイプ名	契約基本タイプ							
	1S	S	1B	B	1C	C	1E	E
死亡・後遺障害	100万円	100万円	159万円	159万円	235万円	235万円	500万円	500万円
遭難捜索費用	100万円	100万円	150万円	150万円	200万円	200万円	500万円	500万円
入院保険金日額	1000円	なし	1000円	なし	1500円	なし	2500円	なし
入院を伴う手術保険金※1	○		○		○		○	
通院保険金日額	600円		600円		900円		1500円	
賠償責任	1億円	1億円	1億円	1億円	1億円	1億円	1億円	1億円
保 険 料	6,450円	3,900円	8,260円	5,710円	11,540円	7,720円	23,940円	17,570円

※1 手術保険金は、入院を伴う手術の種類に応じ入院保険金日額の10倍、20倍、40倍の額をお支払します。

～「ハイキングコース」の保険料例～

職種級別 A

(1) 保険始期日が4月1日の方

通院補償付タイプがおすすめ!

昨年からの1年間*で入院は171件、通院は304件のお支払い
事実がありました。(※平成23年10月1日～平成24年10月1日の支払実績)
Ⅱセット・新設のⅢセットなら、ケガによる通院にも備えることができ
ます!



保険金額 タイプ名	契約基本タイプ		
	I	Ⅱ	Ⅲ
死亡・後遺障害	150万円	250万円	300万円
救援者費用	300万円	300万円	500万円
賠償責任	1億円	1億円	1億円
入院保険金日額	2,000円	4,000円	5,000円
入院を伴う手術保険金	入院を伴う手術の種類に応じ入院保険金日額の10倍、20倍、40倍の額をお支払いします。		
通院保険金日額	なし	1,500円	2,500円
保 険 料	2,140円	5,470円	7,540円

新設しました!

- 「登山コース」は、ピッケル、アイゼン、ザイル等の登山用具を使用する登山中の事故を対象としております。一方、「ハイキングコース」は前記の登山用具を使用しない普通の登山(ハイキング等)中の事故を対象としています。
- このチラシの保険料は一例です。ご加入者様のご職業によって保険料が異なります。詳しくはパンフレットをご請求のうえ、ご参照ください。
- どのタイプでもご加入できますが複数タイプ・セットのお申込みはできません。(全ての加入タイプ・セットのうちいずれか一つのみ選択可能。)
- 保険金額はご加入いただいた被保険者の人数に従った割引率で決定されますので、募集の結果上記と異なる保険金額に変更される場合があります。この場合、死亡・後遺障害保険金額を割引率に応じた金額とさせていただきますので、あらかじめご了承ください。
- 保険期間は平成25年4月1日～平成26年4月1日となります。毎月、パンフレット掲載の所定の日付での中途加入も受け付けております。

お問い合わせ及びパンフレット請求先: 日本山岳協会山岳共済事務センター

月～金 10:00～17:00(土・日・祝祭日除く)

〒170-0013 東京都豊島区東池袋3-7-11-707

電話 03-5958-3396 FAX 03-5958-3397

Eメールアドレス sangakukyousai@mbd.ocn.ne.jp

ホームページ <http://sangakukyousai.com>

契約者: 日本山岳協会山岳共済会

取扱代理店: 瀬田工業有限会社

引受保険会社: 三井住友海上火災保険株式会社

承認番号: B12-102339 使用期限: 2014.4.1

- 配布について
- ・第52回茨城大会の要項配布について
- ・第53回徳島大会の開催日について
- ・第54回大会の会場について
- エ 平成25年度常任委員について
- (4)競技部合同委員会
- 6月20日(木) 出席者12名
- ア 競技部3委員会のメンバー構成と各委員会の役割分担について
- イ 選手登録費の改定について
- ウ 高体連登山専門部の本会加盟について
- エ ブロック大会での順位決定方法について
- オ 平成25年度ブロック研修会について
- カ 各事業の担当者割り振りについて
- キ 平成26年度以降の全国高等学校選抜クライミング選手権大会及びユース日本選手権について
- ク 国体山岳競技規則集共通規則の一部訂正について
- コ 第68回東京国体実施要項の最終確認について
- サ リード競技のチーム順位決定に関して
- シ ブロック大会のブロック割当数の検討について
- ス 第68回東京国体の監督の日体協資格の更新について
- セ 平成25年度第2回理事会報告
- ソ 平成25年度第1回運営部会報告
- タ 日体協国体運営部会報告
- (5)指導委員会
- 7月1日(月) 出席者10名
- ア 6月常任委員会議事録確認
- イ 日山協運営部会報告
- ウ 修了証の発行について(5月分を発行)
- エ 指導者養成講習会実施申請について
- オ コーチ養成講習会について(6/22～24、7/13～15)
- カ 国体山岳競技の監督資格について
- キ ハイキングリーダー制度について
- ケ 指導員の認定申請
- ・A C指導員：渡邊しげ子(新潟)、岩佐弘(茨城)
- ・A C-A級主任検定員：荒木浩二(茨城)、滝澤大徳(北海道)、工藤誠志(静岡)
- ク 平成25年度常任委員候補者について
- コ 登攀技術研修会について(10/12～13、岩手)
- ・平成26年度登攀技術研修会(岡山)検討中
- サ S C指導員養成講習会について
- ・中央開催：埼玉・加須(10/26～27、11/9～10)、福岡(11/2～3、11/16～17)
- ・地方開催：宮城(8/17～18、

- 8/24～25) 沖縄(12/7～8、12/14～15)、北海道(11月)
- シ 『登山月報』指導委員総会報告
- (6)国際委員会
- 7月9日(火) 出席者10名
- ア 平成25年度国際委員総会・第32回海外登山遭難対策研究会の報告・反省
- イ 平成26年度委員総会の会場について
- ・長野県山岳総合センター(6/14～15)
- ウ 平成26年度からの国際委員会の事業について
- ・海外登山奨励金制度の告知方法
- ・BMC派遣、WCM支援について
- エ 第26回海外登山女性懇談会について
- ・国立オリンピック記念青少年センター(12/10)

2. その他の重要事項
(6月14日～7月10日)

【報告】

- (1)全国山岳遭難対策協議会幹事会
6月14日(金) 於：文部科学省
西内常務理事
- (2)富士山利用者負担専門委員会
6月14日(金) 於：都道府県会館
尾形専務理事
- (3)田中文男顧問叙勲受章祝賀会

- 6月16日(日) 於：明治記念館
神崎会長ほか
- (4)第1回国体競技運営部会
6月20日(木) 於：岸記念体育会館
高山委員長
- (5)ドーピング防止研修会 6月21日(金) 於：TKP市ヶ谷カンファレンスセンター
中川事務局員
- (6)高知県山岳連盟創立65周年記念式典・祝賀会 6月22日(土) 於：高知市・高知会館
神崎会長
- (7)平成25年度国際委員総会・第31回海外登山遭難対策研究会 6月22日(土)～23日(日) 於：八王子セミナーハウス
八木原副会長、澤田委員長
- (8)スポーツ安全協会評議員会
6月25日(火) 於：東海大校友会館・東海の間
神崎会長
- (9)登高会創立30周年記念祝賀会
6月25日(火) 於：ハイヤトリリージェンシー東京
神崎会長ほか
- (10)平成25年度定時評議員会
6月26日(水) 於：品川プリンスホテル
内藤監事
- (11)財政WG 6月26日(水) 於：岸記念体育会館
内藤監事、尾形専務理事、小野寺常務理事、相良理事
- (12)モンベル高輪ビル披露会
6月27日(木) 於：モンベル高輪ビル
尾形専務理事

寄贈図書

寄贈本	(公財)スポーツ安全協会	「救急ハンドブック」
雑誌	東京新聞出版部	「岳人」8月2013 No.794
	山と溪谷社	「山と溪谷」2013 8月号
会報	(公財)日本体育協会	「SPORTS FOR ALL2013」
	(公財)健康・体力づくり事業財団	「健康づくり」No.423
	兵庫県山岳連盟	「兵庫山岳」第553号
	FEEC	「Vertex」No.248
	横浜山岳会	「山」973号 2013年7月
	(独)日本スポーツ振興センター	「JAPAN SPORT COUNCIL 日本のすべてのスポーツのために」
	(独)日本スポーツ振興センター	「47都道府県プロジェクトトッパースリートの想い& toto助成活動紹介」
	(財)日本万歩クラブ	「帰れ自然へアルク」2013.8.9
	中華民国山岳協会	「中華山岳」235
	COREAN ALPINE CLUB	「COREAN ALPINE CLUB」2013.7～8 vol231
	(公財)全日本ボーリング協会	「JBCニュース」第500号
	植村直己冒険館	「植村直己冒険館だより」第14号
	(公財)日本体育協会	「Sports Japan」2013.7-8 vol8
	(公財)富山コンベンションビューロー	「とやま夢大陸」2013.7 vol93
	神奈川県山岳連盟	「ときわ木」161号 2013夏
	(公社)日本武術太極拳連盟	「武術太極拳」2013.7.10. No.285
	(公財)日本体育協会	「体協スポーツニュース・体協フェアプレイニュース」2013年7月8日
	常北山水会山岳部	「山水」第39号
	大阪府立体育会館	「季刊 府立体育会館」No.105
	日本勤労者山岳連盟	「登山時報」2013.8月号
(公財)全国高等学校体育連盟	「全国高体連ジャーナル」第25号	
飯豊連峰保全連絡会	「飯豊連峰保全連絡会ニュースレター」第19号	
NPOオリンピック・アカデミー	「JOA Times」第36号	
日本山岳遺産基金	「日本山岳遺産基金通信」No.005	
NPO日本ヒマラヤン・アドベンチャー・トラスト	「HAT-J NEWS」No.90 2013年7月20日	
中国登山協会	「山野」中国戸外 2013.7月	
東京野歩路会	「山嶺」vol90 No.1001	
(公社)国土緑化推進機構	「ぐりーんもあ」第62号	

- (13)「山はみんなの宝」憲章制定発表大会 6月27日(木) 於：東京環境工科専門学校 石倉委員長、松隈、徳永常任委員
- (14)平成25年度JOC定時評議員会 6月27日(木) 於：味の素ナショナルトレーニングセンター 神崎会長
- (15)「山の日」制定協議会 6月28日(金) 於：日本山岳ガイド協会 尾形専務理事
- (16)雪標山岳会創立60周年記念祝賀会 6月29日(土) 於：南国酒家迎賓館 佐藤副会長ほか
- (17)平成25年度遭難対策委員総会・研修会 6月29日(土)～30日(日) 於：桜ノ宮リバーサイドホテル 神崎会長、西内常務理事
- (18)全国山岳遭難対策協議会 7月3日(水) 於：文部科学省講堂 神崎会長、尾形専務理事、西内常務理事
- (19)故羽田栄治氏偲ぶ会 7月3日(水) 於：ヒルトン東京 神崎会長ほか
- (20)国立登山研修所専門調査委員会 7月4日(木)～5日(金) 於：国立登山研修所 尾形専務理事、北村、増山理事
- (21)谷川岳山開き 7月7日(日) 於：土合 神崎会長
- (22)モンベル展示会 7月10日(水) 於：都立産業貿易センター 尾形専務理事

3. 議事

- (1)平成25年度6月運営部会議事録の承認について(承認)
- (2)公開練習会の開催について(都岳連と競技部で協議して回答文書を作成することで承認)
- (3)2014冬季ソチ五輪アイス・クライミング大会への選手派遣について(派遣を承認。派遣選手の選考は選手強化委員会に一任)
- (4)2016年国際大学選手権のスポーツクライミング追加競技に係る開催地の立候補について(関係機関と協議して8月常務理事会で再審議)
- (5)報告事項
ア 会計月次

- イ 国体山岳競技規則一部改訂の追加条文について
- ウ 平成25年度専門委員会常任委員候補者(案)について
- エ パキスタン北部地域における外国人旅行者に対する襲撃の発生に伴う注意喚起について
- オ 平成25年度全国山岳遭難対策協議会について
- カ 平成25年度中高年安全登山指導者講習会について
- キ 国立登山研修所専門調査委員会の報告
- ク 平成25年度自然公園指導員表彰被表彰者の決定について
- ケ 国体監督の公認スポーツ指導者資格について
- コ 平成25年度山岳共済会の加入状況について

4. 役員等の派遣について

- (1)第16回JOCジュニアオリンピックカップ大会 8月10日(土)～12日(月) 於：南砺市・桜が池CC 神崎会長、森下常務理事、北山、山本委員長
- (2)ルートセッター全国研修会 8月13日(火)～15日(木) 於：南砺市・桜が池CC 森下常務理事、北山、山本委員長
- (3)みんな集まれ！ジュニア登山教室 in 立山 8月11日(日)～14日(水) 於：国立立山青少年自然の家他 神崎会長、本木顧問、八木原副会長、西内、仙石、青木常務理事
- (4)世界ユース選手権 8月15日(木)～19日(月) 於：カナダ Central Saanich 小日向団長ら19名(内選手14名)
- (5)レスキュー講習会 8月23日(金)～25日(日) 於：国立登山研修所 西内常務理事

5. 後援、協賛等の依頼について

- ア 「山岳・辺境文化セミナー2013」後援名義について(広島県山岳連盟主催)(承認)
- イ 第1回近畿トレッキングフェスタ in マキノ(近畿地区山岳連盟主

催)(承認)

6. 報告

- (1)自然保護指導員の承認
なし
- (2)指導員の認定承認
①SC指導員
なし
②SC上級指導員
なし
- (3)アルパイン指導員
新潟：渡邊しげ子、茨城：岩佐弘(以上、2名を承認)
- (4)アルパイン上級指導員
なし
- (5)アルパインA級主任検定員
荒木浩二(茨城)、滝澤大徳(北海道)、工藤誠志(静岡)以上、3名を承認

**7. 通知、依頼、連絡、案内等
別紙の通り**

8. 連絡事項

- ①平成25年度8月常務理事会 8月8日(木) 17:30～21:00(岸記念体育会館103号室)
- ②平成25年度9月常務理事会 9月12日(木) 17:30～19:00(岸記念体育会館103号)
- ③第2回運営部会 9月12日(木) 19:00～21:00(岸記念体育会館103号室)

編集後記

7月の連休に南ア白根三山縦走に出かけた。大樺沢は梅雨明けとあって大変な賑わい、肩の小屋キャンプ指定地は張る場所がないくらい混んでいた。軽量化と雑誌によるテント泊のすすめで利用者が増え、流行りの様だ。間ノ岳から先は登山者も減って静かな山旅が楽しめた。

(広報担当 水島彰治)

登山月報 第533号

定価 100円(送料別)
 予約年間 1,200円送料共
 昭和45年12月12日
 第三種郵便物認可
 (毎月一回15日発行)
 発行日 平成25年8月15日
 発行者 東京都渋谷区神南1の1の1
 岸記念体育会館内
 公益社団法人日本山岳協会
 電話 03-3481-2396
 FAX 03-3481-2395

NPO法人 北丹沢山岳センター

事務局 〒252-0184 神奈川県相模原市緑区小淵1545-1
 TEL 042-687-4011 FAX 042-687-3980
 E-MAIL kitatanzawa@kib.biglobe.ne.jp

蛭ヶ岳山荘 TEL:090-2252-3203(衛星電話)

神の川ヒュッテ TEL:042-787-2276

和時「時の茶屋」 TEL:042-687-2882

理事長・代表 杉本憲昭

NPO法人 北丹沢山岳センター

事務局 〒252-0184 神奈川県相模原市緑区小淵1545-1
 TEL 042-687-4011 FAX 042-687-3980
 E-MAIL kitatanzawa@kib.biglobe.ne.jp

- 北丹沢12時間山岳耐久レース実行委員会
- 陣馬山トレイルレース実行委員会
- 八重山トレイルレース実行委員会
- 東丹沢宮ヶ瀬トレイルレース実行委員会

大会々長 杉本憲昭